

「いつまでもわが家で暮らしたいをささえる」 ～支える人@グループホーム

◆プロフィール◆

グループホーム 誉ヶ丘 管理者 長（おさ） 聡子

グループホームは、認知症をもつ高齢者のための施設です。

日々の生活は、“ユニット“と呼ばれるグループに分かれ、共同生活を行います。ユニットとは、居室（個室）、トイレ、浴室、食堂などの共有スペースで構成される生活空間のことです。グループホームには 1 ユニット 9 名までの入所者の制限があります。これは、認知症をもつ方が、新しく出会った人や場所などを認識したり、覚えたりする環境変化にうまく適応できる人数が 10 人ほどと言われている為です。いつも同じ仲間と心穏やかに暮らせる最適な環境をつくる為に、小規模の施設が出来ました。

認知症をもつ方が入居できる施設はグループホーム以外にもありますが、グループホームは認知症介護を専門としています。グループホームのメリットとして一番に言えることは、施設に認知症ケアの経験と知識をもつスタッフがいることです。スタッフのケアにより認知症の進行をおくらせたり緩和させることが期待できます。



芋ほり。利用者、スタッフで行います

干し柿作りもお手のもの。
かえって職員よりも上手
です



グループホームは地域密着型サービスであることから、市区町村から事業者の指定を受けなければ開設することができません。その為に宇城市のグループホームには宇城市の方しか入所できません。各町村に配置してあるので、住み慣れた地域に住み続けられます。規模も他の介護施設と比べると小さく、立地も住宅地に近い場所にあることが多く、住み慣れた地域で近隣住民と交流しながら暮らせるという特徴があります。最近は地域交流（地域のお祭りへの参加・掃除などのボランティア等）を取り入れる施設が増えていきます。



掃除に使う雑巾も手作りで。
作ったものは豊野小学校へ寄付
します



ごぼうのさがき
も器用にできます

グループホームには、医師や看護師の配置義務がないため、原則的に医療処置は行えませんが、緊急時の場合は対応しています。最近では、医療行為が求められることも増えてきたため、看護師を配置したり、訪問看護ステーションと契約するなど医療サービスや看取りの対応を行う施設も増えてきました。

一日の過ごし方は施設により異なりますが、認知症ケアの一環として介護スタッフのサポートを受けながら、料理や洗濯・掃除など、今まで続けてきた自分の役割を続けることができる点も大きく、認知症の進行を遅らせたり、緩和させることにもつながります。



つわぶきの皮をも1本1本丁寧に

常に慣れ親しんだ人たちと過ごすことができることから、急な変化が苦手な認知症をもつ方のストレスが少なく日々の生活を送ることができます。